



国際石油開発帝石株式会社  
代表取締役社長

北村 俊昭

韓国のイクシスLNGプロジェクト生産施設建造現場を視察

INPEXグループは、石油・天然ガス開発事業を主体とする総合エネルギー企業として、エネルギーの安定的かつ効率的な供給を通じて社会の持続的発展に貢献します。

### エネルギーを取り巻く環境

私たちの日々の暮らしを支えるエネルギー。新興国の経済発展に伴い、世界のエネルギー需要は今後も増加していく見通しです。その一方、温暖化をはじめとする地球規模での環境問題への対処が待たなしで求められており、エネルギーは持続可能な社会の発展を目指す上での世界共通の課題となっています。

そうした中、今後ともエネルギーの中核をなす石油・天然ガスの開発の中心は、技術的・経済的にもチャレンジングなフロンティア地域にシフトしており、新規の石油・天然ガスの確保は年々困難になっています。さらに、資源国が自国で資源を管理・開発しようという資源ナショナリズムの高まりや新興国による積極的な資源獲得により、石油・天然ガス権益の確保を巡る競争は熾烈化し、経済条件も厳しさを増しています。また米国発のいわゆるシェール革命によって世界的なエネルギー需給構造に大きな変化が生じつつあり、石油・天然ガスの生産国

および消費国の双方に大きな影響をもたらすとともに、その影響は石炭や石油化学など石油・天然ガス以外の産業にも波及しています。

このように、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しており、エネルギーの安定的かつ効率的な供給という当社グループの社会的使命は、かつてないほど重要性が高まっているものと認識しています。

### エネルギーの安定供給に向けたINPEXのCSR経営

当社グループでは2012年5月に策定した「INPEX中長期ビジョン」において、「ステークホルダーの皆さまから社会的にかけがえのない存在としてより一層評価される企業になること」を目指す企業像として掲げています。この実現に向け、2020年代の前半に達成を目指す3つの成長目標を明らかにするとともに、これを実現するために必要となる経営基盤整備の一環

として、「グローバル企業としての責任ある経営」を推進しています。具体的には、多様な文化や価値観を保有するステークホルダーを意識し、グローバルレベルのCSRを持続的に強化するため、国連グローバル・コンパクトへの参画をはじめ、主要な国際的枠組みに参加するとともに、当社のCSRロードマップに基づきCSR重点テーマと目指す目標を設定し、PDCAのマネジメントを実践、深化させています。



オーストラリアのチャールズスターウィン大学の副総長 Simon Maddocks教授を表敬訪問

## “思い”を分かち合い、地域社会とともに成長する企業へ

当社グループの当面の主要な事業として、世界でも有数の規模となる2つの大型LNGプロジェクト「イクシス」(オーストラリア)、「アバディ」(インドネシア)を日本企業初のオペレーター(操業主体)として着実に進めます。国内では、直江津LNG基地の操業開始により、1,400kmに及ぶガスパイプラインネットワークと合わせ、国内、海外で生産した天然ガスを自ら輸送し、ユーザーに直接お届けする、いわば“自前のガスサプライチェーン”構築に向けた国内基盤ができました。引き続き、安全第一を合言葉に安全操業に万全を尽くしていきます。こうした取り組みを進めることで、クリーンエネルギーである天然ガスの安定供給体制を大幅に強化していきます。また、今後の持続可能なエネルギー供給を見据え、地熱発電を中心とした再生可能エネルギー開発にも積極的に取り組んでいます。2014年3月にはメガソーラー上越の拡充を決定しました。

当社グループの事業を進める上では、資源国政府や操業地域社会、事業パートナーなどさまざまなステークホルダーとの信頼関係を築くため、丁寧なコミュニケーションに努め、お互いに事業に対する理解と期待という“思い”を分かち合います。そうすることで、操業地域社会にも、当社にもプラスとなる取り組みを創造、実践し、社会とともに成長する。このようなアプローチを当社グループとしての確かな“強み”へと高めていきたいと考えています。

アラブ首長国連邦アブダビにおいて、当社にとって最も重要な権益の一つである上部ザクム油田の権益が2041年12月31日まで15年余延長されることが決定しましたが、この背景にも、長年の操業実績に加えて、日本政府の支援の下での相互の幅広い信頼関係や協力の積み重ねがあったものと理解しています。

## 多種多様な人材がグローバルに価値観を共有できる人材育成の推進

当社グループの事業は資源採掘という性格上、如何に努力しても地域社会や地球環境に対して一定の負荷を与えることが避けられない業種です。そのため、社会との信頼関係を構築・維持しながら事業を進めるためには、会社としての理念はもとより、グループ従業員一人ひとりがグローバルな視点で共通の価値観を共有し、行動することが大切です。

現在、当社の連結従業員数は2,874名で、その約半分が日本国外で勤務しています。また、オーストラリア、インドネシアなど、外国籍の従業員は全体の約4割を占めています。このように、当社がますます多文化・多国籍化していくなか、私たちは、2014年4月にグループ全従業員がグローバルに共有する価値観として、「INPEXバリュー」を制定しました。この「INPEXバリュー」はこれまで日本・オーストラリア・インドネシアで個別にあったそれぞれの価値観を1年以上にわたる議論を重ねて一つに統合したものです。当社では、国籍や勤務地の違いを越えて、社員がこの共通の「INPEXバリュー」のもと一体となって働くことで、多種多様な人材が活き活きと活躍する会社となるよう、今後も人材育成に取り組んでいきます。

当社グループの社会的使命は、エネルギーを安定的かつ効率的に供給することです。操業におけるHSE(健康・安全・環境)を徹底するとともに、ステークホルダーとの対話を通じて社会的課題の解決と企業の利益を両立させる、いわゆるCSV(Creating Shared Value)という視点を当社のCSR経営に取り込むことも考えながら、グローバルレベルのCSRを一層意識した検討・取り組みを推進していきます。こうした取り組みを通じて、事業活動そのものを持続可能な社会づくりにつなげられるよう、今後も不断の努力をまいります。

## ガスサプライチェーン

自ら生産した天然ガスを輸送し、ユーザーに直接お届けするガスサプライチェーンの構築に向け、国内基盤を整備

## 15年余

最重要の油田権益である上部ザクム油田の権益が15年余延長されることが決定

## 「INPEXバリュー」

グループ全従業員がグローバルに共通の価値観を共有し行動するための「INPEXバリュー」を制定

## Safety

安全第一

## Integrity

誠実

## Diversity

多様性

## Ingenuity

創意工夫

## Collaboration

協働